

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

内容
1) オープニング「アスリートダンス」 → 本編幕開きの、水泳をモチーフにしたダンスパフォーマンス。レースに臨むアスリートの心情、緊張感、躍動を表現します。(出演者／3～10名)
2) シーン1「小宮山豆腐店」 → 主人公の下宿先「小宮山豆腐店」を訪れる商店街の隣人たちを演じます。登場人物の職業、性格などを自分たちで創りあげ表現します。(出演者／3～7名)
3) シーン2「ザ・下校！」 → 盲学校へ通う生徒たちの、夏休み目前のある日の下校場面。劇中のセリフを自分たちで考えて、オリジナルのシーンを創ります。(出演者／3～7名)
4) 出演者以外の児童生徒へのワークショップ(参加人数は、学校と相談の上決定します) → 可能な限り学校の希望に応じた内容で実施します。

タイムスケジュール(標準)
13:00 学校(会場)到着。→ 校長先生、担当先生との打ち合わせ → 各シーンの出演人数に合わせ、会場の割り振り。
13:30 全体集合。挨拶の後、各会場に分かれてのワークショップ実施。
14:50 全体集合。各シーンごとの成果発表。
15:10 ワorkshop終了。挨拶の後、退校。

派遣者数
派遣人員／6名 内訳 → アスリートダンス／2名 シーン1／2名 シーン2／2名 出演者以外のワークショップを実施する場合シーン1.2の各1名、計2名が担当

学校における事前指導
1) 上演台本、本編収録のDVD、本事業の概略を記載した「手引き」の郵送。
2) 各シーン出演予定者名簿の作成と、弊社への返送。 ※ 出演者以外のワークショップ希望を確認。
3) 各シーン別の、会場の設定。 ※ 通常は3会場、出演者以外のワークショップを希望する場合は4～5会場。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社劇団東京芸術座
公演団体名	劇団東京芸術座

演目
「Challeng-ed (チャレンジ・ド) -遠い水の記憶-」 上演時間 / 100分 (休憩なし) 原作 / 神品 正子 脚本・演出 / 印南 貞人 美術 / 幡野 寛 音楽 / 川本 哲 照明 / 矢口 雅敏 効果 / 中嶋 直勝 衣裳 / 山田 靖子 過去採択実績 平成21年度 本物の舞台体験事業 令和元年度 文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

派遣者数
派遣人数 19名 内訳 / 出演者 13名 スタッフ 6名

タイムスケジュール (標準)					
到着時刻	設営作業	本公演	内休憩	撤去作業	退校時刻
7:30	8 ~ 13:00	13 ~ 15:00	0	15 ~ 17:00	18:00
前日の設営 (あり)・なし) 会場設営の所要時間 (6時間程度) ※絶対条件ではありません。 前日設営作業は、2時間程度。条件により異なります。 小学校での本公演実施の場合、途中10分間の休憩があります。					

実施校への協力依頼人員
学校側のご希望により、ワークショップを含め、先生方の参加・出演も可能です。

演目解説

<あらすじ>

ロンドンオリンピックの平泳ぎ種目でメダルを期待されていた高橋は、代表選考を兼ねた日本選手権で予期に反して三位にとどまり、オリンピック出場のチャンスを逸する。競技者としての将来を思い悩んでいたところ、ある盲学校の校長から「体育教師として生徒たちに水泳を教えて欲しい」と懇願される。

教職につきながらも心の奥底に挫折感を秘めた高橋、社会からの「悪意のない同情」に反発する傷つきやすい生徒たち。高橋は自身の人生を見つめ直すため、自分の学んだことを生徒たちに伝えるために、再び日本選手権にエントリーする。そんな高橋に生徒たちは共感し信頼を寄せはじめる・・・

この作品は、水泳という競技にとどまらず人間の本来の生き方について問いかけます。負の過去を背負った若者たちがそれぞれの悩みと真摯に向き合いながら、“一緒に泳ぐこと”を通じて無くしかけたものを取り戻し、再び挑戦者として歩み始める姿を、スポーツの持つ清々しさと力強さを生かしたタッチで描いています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

1. 本番当日を楽しみにしていただけるよう、お芝居の楽しさを十分に体験できるよう出演者のワークショップをプログラムします。
2. 出演者のワークショップだけでなく、学校の希望により出演者以外の児童・生徒へのワークショップも実施します。また、年齢に応じた内容のワークショップ実施などもご提案しています。(小学校の場合、1,2年生・3,4年生・5,6年生に分けて実施するなど)

児童生徒とのふれあい

派遣人員を含め、参加者全員がそれぞれ名札をつけて相手を名前呼び合います。また、本公演直前のリハーサルまで児童・生徒さんの自発的な発想、行動を促しながら、本公演では一つの作品創造に関わる一員だという自信と達成感を感じてもらえるよう心がけています。